

平成 29 年度 新国立劇場高校生のためのオペラ鑑賞教室

ジャコモ・プッチーニ

「蝶々夫人」

【全2幕<イタリア語上演/字幕付>】

2017年7月10日(月) 11日(火) 12日(水) 13日(木) 14日(金) 15日(土)
全6回公演 全日 13:00 開演 新国立劇場オペラパレス新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室で
本物の感動を体験する。

高校生の心に感動を伝え続ける新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室。1998年より毎年開催され、今年で20年目を迎えます。演目としては、『蝶々夫人』『トスカ』『カルメン』『カヴァレリア・ルスティカーナ』『椿姫』『ラ・ボエーム』『愛の妙薬』『夕鶴』『フィガロの結婚』と、オペラの名作9演目を上演、高校生及び学校関係者に好評を得てきました。来場する高校生は毎年約1万2千人、これまでに18万人に及ぶ高校生が参加しています。来場者の約9割がオペラ鑑賞初体験という高校生たちですが、幕が開くとざわついた劇場内はたちまち静まり返り、ドラマチックなストーリー展開と歌手やオーケストラの生演奏に引き込まれていきます。

今年の演目の『蝶々夫人』は、鑑賞教室で最も多く上演されているプッチーニの人気作です。演出は、数々の演劇やミュージカルの秀逸な演出で知られる栗山民也。この『蝶々夫人』では、演劇的なアプローチで人物の内面を鮮やかに描写する演出が、多感な高校生の想像力を多めに刺激し、オペラへの興味を喚起すると好評を博しています。日本を代表するオペラ歌手、オーケストラが出演する本格的な舞台を、各方面からのご支援により破格の料金でご覧いただく貴重な機会です。一般の皆様への周知にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

チケット料金：全席指定 高校生 2,160円(要学生証)

前売開始：2017年6月17日(土)

残席がある場合に限り、当日券として4,320円で一般(大人)の方も購入可(高校生以下2,160円)。

チケットに関するお問い合わせ：新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999

助成：公益財団法人 **ロームミュージックファンデーション**協賛：**ローム株式会社**

損保ジャパン日本興亜

<写真、資料のご請求、ご取材のお問い合わせ>

新国立劇場制作部 オペラ広報 滝本香、高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/

e-mail:takimoto_k1632@nntt.jac.go.jp, takanashi_y2525@nntt.jac.go.jp

■新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室

「新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室」は、現代舞台芸術の一層の普及をめざす新国立劇場が、次の世代を担う青少年に向け優れた舞台芸術を鑑賞する機会として1998年(平成10年)より毎年開催、今年で20年目を迎えます。「初めてのオペラ鑑賞だからこそ、本物のオペラを体験していただきたい」という願いを込めて、演出、舞台美術、衣裳など本公演と全く同じ全幕プロダクションを上演、日本を代表する歌手達が出演し、生のオーケストラ演奏で上演しています。高校生を学生扱いせず、一般のお客様と全く同じスタイルで名作オペラを全曲鑑賞していただくというコンセプトが大変ご好評をいただいております。

平成20年度より関西公演が開始され、毎年東京公演、関西公演あわせて約1万2千人の高校生が「本物の芸術」であるこの公演でオペラデビューしています。

今年度の東京公演は、公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーションの助成、協賛としてローム株式会社、損害保険ジャパン日本興亜株式会社のご支援のもと、プッチーニのオペラ『蝶々夫人』を上演します。

なお、今年度の関西公演は、京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、新国立劇場の主催、公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーションの助成、ローム株式会社の協賛により、2017年10月30日(月)・11月1日(水)にロームシアター京都で開催されます。演目は東京公演と同じ『蝶々夫人』、指揮は高関健、管弦楽は京都市交響楽団です。

■平成27年度鑑賞教室『蝶々夫人』アンケートより

今回と同じ『蝶々夫人』を上演した平成27年度のアンケート結果によると、オペラ鑑賞初体験の高校生は全体の約9割(89.2%)を占めましたが、8割(82.4%)の高校生が鑑賞後に「とても良かった/面白かった」「良かった」と答えました。また、オペラをまた見たいかという質問には、約9割の高校生が「自分でチケットを買って見たい」「学校やグループで行く機会があればまた見たい」と回答しました。新国立劇場のオペラ鑑賞教室に参加する学校も年々増え、首都圏の約50校が参加しています。

(アンケートより)

- ◆まず、照明と舞台装置、美術に感動しました。影がきれいで、唖然としました。オペラをはじめて見ましたが、普通の演劇ではなく、オーケストラと歌で表現することでしか見れないものがあると思いました。(2年生/男子)
- ◆パンフレットの解説・見どころのおかげでとても分かりやすかったです。高校生向けのこういった機会があるのは視野を広げる貴重な経験になります。もっともっとこういう企画が増えたら嬉しいです!!(2年生/女子)
- ◆歌で全身がふるえる感覚というのを初めて知りました!(2年生/女子)
- ◆蝶々夫人の悲しさや苦しみがありありと伝わってきて見ているこちらも胸が痛かった。また、ピンカー頓の身勝手は非常に腹がたつ。自己満足な悲しみで最後には逃げだしてしまうとは本当に虫がいい奴だと思う。(1年生/女子)
- ◆舞台セットがとてもすごくてとても良くできていると思いました。階段が特にすごい!!また、衣装も着物がとてもきれいでした。舞台を大きく使っている所がとてもいい演出だと思いました。(2年生/女子)
- ◆ものすごくたくさんの方がこのオペラに関わり、作り上げているのだと思い、大変感動しました。(2年生/男子)
- ◆声量とオーケストラの迫りに圧倒されました。生でオペラを鑑賞するという貴重な経験ができて非常に嬉しいです。(2年生/女子)
- ◆プッチーニの音楽性、音楽へのリスペクトを感じられる感動的な公演でした。蝶々夫人の豊かな表情、スズキの優しさ、ピンカー頓の後悔、すべて心に残る素晴らしい演技、歌唱でした。またこれからもオペラを見に行きたいと思います。(2年生/男子)

■『蝶々夫人』 あらすじ

【第 1 幕】明治時代の長崎。日本滞在中、家を借り、現地妻を娶るアメリカ海軍士官ピンカートンは、仲介人ゴローに家や使用人を案内される。アメリカ総領事シャープレスはピンカートンの軽薄な考えを聞き、結婚に真剣な花嫁のことを心配する。そんな中花嫁行列がやってきて、美しい蝶々さんがピンカートンの前に現れる。「私は世界一幸せ」と嬉しそうに語る蝶々さんは 15 歳で、裕福な武士の家に生まれたが、父は切腹して亡くなり、今は芸者として生きているという。一族が集まり結婚式が行われている最中、叔父の僧侶ボンゾがやってきて、キリスト教に改宗した蝶々さんに絶縁を言い渡す。式は終わり、2 人きりの甘く幸せな夜を迎える。

【第 2 幕】ピンカートンがアメリカに帰国して 3 年。「コマドリが巣を作る頃に帰る」とのピンカートンの言葉を信じる蝶々さんは、彼の帰りを待ち続けている。シャープレスとゴローは蝶々さんにヤマドリとの再婚を勧めるが、蝶々さんはそれを拒む。というのも、ピンカートンとの間に子供が生まれていたのだ。驚いたシャープレスは言葉もない。実はピンカートンは帰国後に“本当の”結婚をしていたのだ。そしてピンカートンの船が入港。蝶々さんとスズキは部屋を花でいっぱいにして、夫の到着を待つ。蝶々さんが奥の部屋にいる間、やってきたのはピンカートン、シャープレス、そしてピンカートンの妻ケート。スズキが応対するが、蝶々さんの思いを知ったピンカートンは堪らず立ち去る。すべてを悟った蝶々さんは、子供をアメリカで育てたいというケートの言葉を受け入れる。父の形見の短刀に刻まれた言葉「名誉をもって生きられないものは名誉をもって死ぬ」ことを決意した蝶々さんは、子供に別れを告げ、切腹する。「蝶々さん！」と叫ぶピンカートンの声がむなしく響く。



平成 27 年度オペラ鑑賞教室公演より

■公演概要

タイトル	平成29年度 新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 「蝶々夫人」 全2幕<イタリア語上演/字幕付>
スタッフ	指揮：三澤 洋史 演出：栗山 民也 美術：島 次郎 衣裳：前田 文子 照明：勝柴 次朗
キャスト	(7月10・12・14日) (11・13・15日) <蝶々夫人> 小林 厚子 横山 恵子 <ピンカートン> 小原 啓楼 村上 敏明 <シャープレス> 大沼 徹 黒田 博 <スズキ> 山下 牧子 与田 朝子 <ゴロー> 糸賀 修平 内山 信吾 <ボンゾ> 長谷川 顯 峰 茂樹 <ヤマドリ> 吉川 健一 星野 淳
合唱	新国立劇場合唱団
管弦楽	東京フィルハーモニー交響楽団
主催	新国立劇場
助成	公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション
協賛	ローム株式会社 損害保険ジャパン日本興亜株式会社
日程	2017年7月10日(月)13:00、11日(火)13:00、12日(水)13:00、 13日(木)13:00、14日(金)13:00、15日(土)13:00 *開場は開演の45分前です。
会場	新国立劇場オペラパレス
料金(税込)	前売:高校生 2,160円(要学生証) 2017年6月17日(土)前売開始 *残席がある場合に限り、一般の方も当日券として1人1枚購入可 高校生以下 2,160円、一般(大人)4,320円
お問い合わせ	新国立劇場ボックスオフィス TEL: 03-5352-9999

新国立劇場「高校生のためのオペラ鑑賞教室」は、常松美登里子様からのご寄附を活用して行う公演事業です。

■プロフィール

【指揮】三澤洋史

MISAWA Hirofumi

国立音楽大学声楽科卒業後、指揮に転向。1984年ベルリン芸術大学指揮科を首席で卒業。85年ブリティッシュ・リヴァーで指揮デビュー。以来オペラ、オラトリオの合唱指揮者として活躍。99年以降パイロイト音楽祭の合唱指導スタッフとして招聘される。新国立劇場では合唱指揮以外に、『ヘンゼルとグレーテル』、小劇場オペラ『アブ・ハッサン』『オペラの稽古』、高校生のための鑑賞教室『蝶々夫人』の指揮、こどものためのオペラ劇場『ジークフリートの冒険』『スペース・トゥーランドット』の編曲・指揮を務めている。『ジークフリートの冒険』はウィーン国立歌劇場特設会場及びチューリヒでも上演され好評を博した。2011年4月から3か月間文化庁在外研修員としてミラノ・スカラ座で研修。新国立劇場合唱団指揮者としての功績により第3回JASRAC音楽文化賞を受賞。新国立劇場合唱指揮者。

【演出】栗山民也

KURIYAMA Tamiya

早稲田大学文学部演劇科卒業。主な演出作品に『GHETTO／ゲッター』『きらめく星座』『海をゆく者』『組曲 虐殺』『スリル・ミー』『ピアフ』『藪原検校』『デスノート The Musical』などがある。紀伊國屋演劇賞、読売演劇大賞最優秀演出家賞、芸術選奨文部大臣新人賞、毎日芸術賞千田是也賞、朝日舞台芸術賞などを受賞。新国立劇場では演劇『ブッダ』『キーン』『夜への長い旅路』『欲望』という名の電車』『夢の裂け目』『浮標』『夢の泪』『世阿彌』『胎内』『喪服の似合うエレクトラ』『母・肝っ玉とその子供たち』『夢の疵』『氷屋来たる』『まほろば』『雨』『マニラ瑞穂記』『あわれ彼女は娼婦』など、オペラ『夕鶴』『蝶々夫人』を演出。著書に『演出家の仕事』。新国立劇場演劇芸術監督を7シーズン務め、2005年4月から16年3月まで新国立劇場演劇研究所所長を務める。13年春、紫綬褒章受賞。

【蝶々夫人】小林厚子

KOBAYASHI Atsuko

<7月10日・12日・14日>

東京藝術大学大学院オペラ科修了。文化庁在外派遣によりイタリアにて研修。藤原歌劇団にデビュー後、同歌劇団『蝶々夫人』でタイトルロールデビュー。首都オペラ『フランチェスカ ダ リミニ』フランチェスカ、オペラ彩『マリア ストゥアルダ』エリザベッタ、『マクベス』マクベス夫人、西本智実プロデュース『蝶々夫人』、フィオーレオペラ『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、イタリアのトラエッタ・オペラ・フェスティバルではトラエッタ劇場、クルチ劇場の『蝶々夫人』に出演を重ねる。ヴェルディ『レクイエム』、『ミサ・ソレムニス』、第九などのソリストとしても活躍。新国立劇場では、これまでに『アイーダ』タイトルロール、『アンドレア・シェニエ』マッダレーナ、『オテロ』デズデーモナ、『ドン・カルロ』エリザベッタ等ドラマティックソプラノの難役でカヴァーを務め、公演の成功に貢献している。藤原歌劇団団員。

【蝶々夫人】横山恵子

YOKOYAMA Keiko

<7月11日・13日・15日>

東京音楽大学卒業。同大学研究科修了。1992年渡欧。バイエルン州立コーブルク劇場『ドン・カルロ』エリザベッタでヨーロッパデビュー。以来ドイツの各歌劇場、ブダペスト国立歌劇場などで主役を務めた。今までに『オテロ』『ワルキューレ』『ナクソス島のアリアドネ』『マノン・レスコー』『蝶々夫人』『トゥーランドット』などに出演。新国立劇場では『修禅寺物語』夜叉王の娘かつら、『神々の黄昏』ゲートルーネ、『ホフマン物語』ジュリエッタ、『魔笛』侍女I、鑑賞教室『トスカ』タイトルロール、同『蝶々夫人』タイトルロールに出演している。15年『トスカ』では急遽第2幕よりタイトルロールに出演し、好評を博した。二期会会員。

【ピンカートン】小原啓楼

OHARA Keiroh

<7月10日・12日・14日>

東京藝術大学卒業。同大学院大学院修了。博士号取得。第41回日伊声楽コンクール第3位並びに歌曲賞受賞。これまでに、二期会『イル・トロヴァトーレ』マンリーコ、『蝶々夫人』ピンカートン、日生劇場『リア』(日本初演)エドモンド等に出演。2016年1月のロームシアター京都オープニング公演『フィデリオ』フロレスタンではその重厚な歌唱が高く評価された。新国立劇場には『夕鶴』与ひょう、『鹿鳴館』久雄、『オテロ』カシオ、『パルジファル』小姓4、『椿姫』ガストン子爵、『ルチア』アルトゥーロなどに出演。特に難役の『沈黙』ロドリゴでの演唱は高く評価された。二期会会員。

【ピンカートン】村上敏明

MURAKAMI Toshiaki

<7月11日・13日・15日>

国立音楽大学卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第17期生修了。2001年12月より文化庁派遣芸術家在外研修員として2年間ローニャに留学。第9回バタフライ世界コンクール・グランプリなど受賞多数。オルヴィエートのマンチネッリ劇場にて『リゴレット』マントヴァ公爵でヨーロッパデビュー後、イタリア各地で『蝶々夫人』『イル・トロヴァトーレ』『ナブッコ』『トスカ』などに出演。これまでに『蝶々夫人』ピンカートン、『椿姫』アルフレード、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『トスカ』カヴァラドッシなどに出演している。新国立劇場では鑑賞教室『蝶々夫人』ピンカートン、鑑賞教室『椿姫』アルフレード、鑑賞教室『愛の妙薬』ネモリーノ、『黒船一夜明け』領事、『修禅寺物語』源左金吾頼家、『オテロ』ロドリゴなどに出演。藤原歌劇団団員。